

# 越冬キャベツ... I

担当者 技能研究員 太田和成

試験課題名	品種系統選定試験
目的	11月どり品種系統の栽培特性と貯蔵性を比較検討し普及に資する
期待される成果	優良品種の導入により、生産の安定と経済性の向上を図る
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所 JA北ひびき和寒基幹支所 和寒町蔬菜組合連合会キャベツ部会

## 1 供試品種・資材

品種

※冬 駒 (タキイ) 湖 月 S P (タキイ) 追 風 (大学農園)  
大学寒玉 (大学農園) 冬 藍 (サカタ) 冬 晴 (雪印)  
※基準品種

## 2 耕種概要

土 壤 ~ 灰色低地土(埴壤土)

前 作 ~ ばれいしょ

播 種 日 ~ 6月16日 定 植 日 ~ 7月22日 収 穫 日 ~ 11月7日

栽 植 密 度 ~ 畦幅60cm×株間45cm 3,703株/10a当たり

## 3 土壌診断結果と施肥量

### (1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	MgO	CaO	熱水抽出N
5.78	0.055	72.6	33.5	51.1	458.3	6.5

### (2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

炭 カ ル ~ 320kg

堆 肥 ~ 1,000kg

### (3) 施肥内容 (成分量/%)

基 肥 ~ 硫酸アンモニア (21.0 - 0 - 0) 7月21日 全層施肥  
基 肥 ~ 粒状過磷酸石灰 (0 - 18.0 - 0) 7月21日 全層施肥  
基 肥 ~ 硫酸加里 (0 - 0 - 50.0) 7月21日 全層施肥  
分 肥 ~ 硫酸アンモニア (21.0 - 0 - 0) 8月22日 条間施肥  
分 肥 ~ 硫酸加里 (0 - 0 - 50.0) 8月22日 条間施肥

### (4) 肥料の要素量

(kg/10a)

			N	P	K
基 肥	硫酸アンモニア	66.7kg	14.0	-	-
基 肥	粒状過磷酸石灰	11.1kg	-	2.0	-
基 肥	硫酸加里	20.0kg	-	-	10.0
分 肥	硫酸アンモニア	28.6kg	6.0	-	-
分 肥	硫酸加里	8.0kg	-	-	4.0
合 計			20.0	2.0	14.0

## 4 調査項目

生 育 調 査 ~ 播種日・発芽期・発芽率・定植日・定植時の苗質・結球期

収 量 調 査 ~ 総重量・調整重・調整率・調整収量・慣行比・規格内割合・障害

特 性 調 査 ~ しまり・球径・球高・緑色・球形指数・硬さ・甘さ・総合評価・糖度(Brix)

枯 れ 葉 調 査 ~ 収穫時・1月中旬・2月中旬

## 5 生育調査

項目		品種	冬駒	湖月SP	追風	大学寒玉	冬藍	冬晴
播	種	日	6月16日					
発	芽	期	6月20日					
発	芽	率 (%)	100	97.3	99.6	99.6	98.8	95.7
定	植	日	7月22日					
定植時の苗質	葉数 (枚)		3.4	3.9	3.7	3.5	3.9	3.7
	葉長 (cm)		5.0	5.4	5.3	4.5	5.1	5.1
結	球	期	8月22日	8月20日	8月20日	8月20日	8月18日	8月18日

## 6 収量調査

項目		品種	冬駒	湖月SP	追風	大学寒玉	冬藍	冬晴
総	重	量 (kg/球)	2.7	3.2	2.9	3.1	2.9	3.1
調	整	重 (kg/球)	1.7	2.2	1.8	2.0	2.0	2.1
調	整	率 (%)	64.2	68.8	64.3	64.8	67.2	69.2
調	整	収量 (kg/10a)	6,306	8,065	6,835	7,493	7,281	7,959
慣	行	比 (%)	100	128	108	119	115	126
規格別割合 (%)	3玉		0	0	0	0	0	0
	4玉		0	10	0	5	0	10
	5玉		0	70	30	35	40	60
	6玉		55	20	45	55	60	30
	7玉～8玉		45	0	25	5	0	0
	9玉～10玉		0	0	0	0	0	0
障害 (球)	病虫害		0	1	2	1	1	1
	障害球		0	0	0	0	0	0

※規格 3玉 3.4kg以上 4玉 2.5～3.3kg 5玉 2.0～2.4kg 6玉 1.7～1.9kg 7～8玉 1.3～1.6kg 9～10玉 0.9～1.2kg

※病虫害(無0～有5)・障害球(良0～不良5)

## 7 特性調査

項目		品種	冬駒	湖月SP	追風	大学寒玉	冬藍	冬晴
外観	しまり(良5～不良1)		3.0	3.0	4.0	2.8	3.5	2.5
	球径 (cm)		20.0	20.7	19.6	21.1	21.9	23.7
	球高 (cm)		13.4	15.0	13.5	12.5	12.5	13.7
	緑色(良5～不良1)		3.0	2.7	2.7	2.5	3.0	2.5
	球形指数 (%)		66.7	72.5	69.1	59.1	57.3	57.7
食味	硬さ(良5～不良1)		3.0	3.2	3.2	3.6	2.8	3.0
	甘さ(良5～不良1)		3.0	2.8	2.4	2.4	4.0	2.3
	総合評価(良5～不良1)		3.0	2.6	2.6	2.8	3.7	2.4
11月7日調査	枯れ葉		2	0	0	0	2	3
	糖度(Brix)		7.6	7.3	7.7	7.3	7.3	6.7
1月12日調査	枯れ葉		3	0	0	0	2	3
	糖度(Brix)		8.4	6.7	7.4	8.3	7.5	7.4
2月9日調査	枯れ葉		2	0	0	1	2	3
	糖度(Brix)		7.6	6.9	7.7	8.0	7.5	7.3

※枯れ葉(多3～少1～無0) 枯れ葉の0は脈害

## 8 病害虫防除履歴

殺虫剤			殺菌剤		
7月20日	ダイアジノン粒剤5	4kg/10a	7月20日	フロンサイドSC	200倍
7月22日	プレバソンフロアブル5	100倍	7月20日	オラクル顆粒水和剤	200倍
8月12日	アディオオン乳剤	2,000倍			
8月24日	プレバソンフロアブル5	2,000倍	8月24日	Zボルドー	500倍
9月1日	ゼンターリ顆粒水和剤	2,000倍	9月1日	トップジンM水和剤	1,000倍
9月9日	ノーモルト乳剤	2,000倍	9月9日	スミレックス水和剤	2,000倍
9月27日	ペイオフME液剤	1,000倍			
10月14日	アディオオン乳剤	2,000倍	10月14日	カンタスDF	1,500倍

## 9 試験結果概要

### (1) 生育経過

6月16日、128穴セル成型トレーに、プラグエース充填し、播種を行った。6月20日に全品種が発芽期となった。発芽率は、冬駒が100%で最も高く、その他の品種も95%以上で良好であった。

全品種、平均的に育苗し、7月22日に定植を行った。定植時の苗質調査では、葉数が3.4枚～3.9枚、葉長が4.5cm～5.4cmとなった。

結球期は、冬藍、冬晴が8月16日で最も早く、冬駒が8月22日で最も遅くなった。

9月は台風によって、畑が冠水し、生育が停滞したが、収穫までにある程度回復が見られた。

### (2) 収量調査結果

収穫は11月7日に行った。収量は基準品種の冬駒が6,306kg/10aとなった。その他の品種は、基準品種より、多い結果となった。最も多かったのは、湖月SPで8,065kg/10aとなった。

規格割合で見ると全品種が5玉～6玉の割合が半数以上となった。冬駒は、他の品種より、7玉～8玉の規格が多くなった。

病害は9月の台風によって、べと病や菌核病が発生した。裂球は、冬駒以外の品種で見られた。また、小玉でも裂球しているものも散見された。

### (3) 特性調査結果

外観のしまりは、追風と冬藍が基準の冬駒より良く、冬晴が基準を下回った。

緑色は、大学寒玉がアントシアンが特に多く、調整のため、緑色が薄い結果となった。

結球指数は、湖月SPの72.5%が最も高く、冬藍の57.3%が最も低い結果となった。

収穫後の食味の総合評価では、冬藍の3.7が最も良い結果となった。

枯れ葉は、冬駒と冬藍が2、冬晴が3となった。

### (4) 考察

10a当たりの調整収量は、昨年度と比較すると冬駒と追風が減収し、湖月SPと大学寒玉が増収している。規格割合は昨年度と同様で5玉～6玉が中心となった。

今年度は、9月の台風によって畑が冠水し、生育が停滞したが、大幅な減収にはならなかった。また、品種によって、枯れ葉の発生が多く見られた。これは、干ばつや集中豪雨など、急激な気象変化によって多く発生したものだと考えられる。

昨年度と一昨年度優良品種であった、追風は今年度も冬駒より収量が多かったため、優良品種と思われる。しかし、窒素肥料の増加などで、裂球が発生し易い問題がある。そのため、キャベツ部会では推奨しないので、新たな優良品種の検討をしたい。